

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3249603号
(U3249603)

(45)発行日 令和6年12月25日(2024.12.25)

(24)登録日 令和6年12月17日(2024.12.17)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 C 27/00 (2006.01)

A 4 7 C 27/00

K

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全6頁)

(21)出願番号 実願2024-3557(U2024-3557)	(73)実用新案権者 524161748
(22)出願日 令和6年10月28日(2024.10.28)	義烏市曠古貿易有限公司
(31)優先権主張番号 202323027130.8	中国浙江省金華市義烏市北苑街道春華路
(32)優先日 令和5年11月8日(2023.11.8)	5 8 8 号
(33)優先権主張国・地域又は機関 中国(CN)	(74)代理人 100125265
	弁理士 貝塚 亮平
	(72)考案者 張逸簫
	中華人民共和國浙江省台州市仙居県南峰
	街道下郭村5 2 号

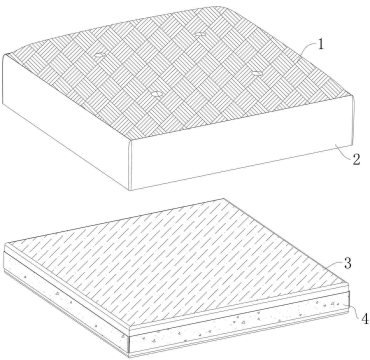
(54)【考案の名称】 分離式の両面用座布団

(57)【要約】 (修正有)

【課題】上主体部及び下主体部を備える分離式の両面用座布団を提供する。

【解決手段】座布団の上主体部1及び下主体部3を備え、座布団の上主体部の周囲には、座布団の下主体部の周囲を着脱可能に包む連結布2が設けられており、座布団の上主体部は、素材が異なる正面と裏面とを有し、正面と裏面のいずれもを上向きに設けられており、座布団の上主体部と下主体部とを連結布で固定する。シンプルな構造で使用が簡便で、季節や個人の好みに応じて座布団の使用面を選択することができ、かつ、使用時には、座布団の上主体部の下方に下主体部が設けられているため、座布団の上主体部の底面が直接床面に接触することを回避し、埃による汚染を防止することができ、二層の座布団のデザインで座布団全体の高さを高くすることができ、より快適性が良い。

【選択図】図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

座布団の上主体部（１）及び座布団の下主体部（３）を備え、

前記座布団の上主体部（１）の周囲には、前記座布団の下主体部（３）の周囲を着脱可能に包む連結布（２）が設けられており、

前記座布団の上主体部（１）は、素材が異なる正面（１０１）と裏面（１０２）とを有し、

前記正面（１０１）と前記裏面（１０２）のいずれもを上向きに設けられており、前記座布団の上主体部（１）と前記座布団の下主体部（３）とを前記連結布（２）で固定されることを特徴とする分離式の両面用座布団。

10

【請求項 2】

前記座布団の下主体部（３）の周囲には、前記連結布（２）に連結可能な連結部材（４）が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の分離式の両面用座布団。

【請求項 3】

前記連結部材（４）は面ファスナーのフック面であり、前記連結布（２）は両面が面ファスナーのモヘア面であることを特徴とする請求項 2 に記載の分離式の両面用座布団。

【請求項 4】

前記連結部材（４）がジッパー又はスナップボタンであることを特徴とする請求項 2 に記載の分離式の両面用座布団。

【請求項 5】

前記連結布（２）は、環状構造またはスプリット構造であることを特徴とする請求項 1 に記載の分離式の両面用座布団。

20

【請求項 6】

前記座布団の上主体部（１）は、前記正面（１０１）が綿麻素材であり、前記裏面（１０２）がパイル素材であることを特徴とする請求項 1 に記載の分離式の両面用座布団。

【請求項 7】

前記座布団の下主体部（３）の底部には、滑り止め材（６）が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の分離式の両面用座布団。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本考案は、座布団の技術分野に関し、特に、分離式の両面用座布団に関する。

【背景技術】

【0002】

生活品質の向上に伴い、家庭用製品に対する快適性、機能性ともに一層高い要求がある。従来の家庭用座布団は、使用者や季節によって、冬用のフランネル生地マットと夏用の涼し生地のマットに大別され、使用シーンが単一である。1つの座布団が冬用及び夏用のいずれにも使用できる目的を達成するために、従来技術も座布団を正反両用に設計しているが、使用時に座布団の底面が地面と接触するため汚れやすく、面倒な清掃作業をもち、使い勝手が悪く、快適性も低いという問題がある。

40

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

本考案は、上記従来技術で提出された従来の座布団の使用場面が単一であり、座布団の底面に埃が汚染されるという問題を解決する分離式の両面用座布団を提出する。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案は、以下のようにして実現される。

【0005】

分離式の両面用座布団は、座布団の上主体部及び座布団の下主体部を備え、前記座布団

50

の上主体部の周囲には、前記座布団の下主体部の周囲を着脱可能に包む連結布が設けられており、前記座布団の上主体部は、素材が異なる正面と裏面とを有し、前記正面と前記裏面のいずれもを上向きに設けられており、前記座布団の上主体部と前記座布団の下主体部とを前記連結布で固定する。

【0006】

好ましくは、前記座布団の下主体部の周囲には、前記連結布に連結可能な連結部材が設けられる。

【0007】

好ましくは、前記連結部材は面ファスナーのフック面であり、前記連結布は両面が面ファスナーのモヘア面である。

【0008】

好ましくは、前記連結部材がジッパー又はスナップボタンである。

【0009】

好ましくは、前記連結布は、環状構造またはスプリット構造である。

【0010】

好ましくは、前記座布団の上主体部は、前記正面が綿麻素材であり、前記裏面がパイル素材である。

【0011】

好ましくは、前記座布団の下主体部の底部には、滑り止め材が設けられる。

【0012】

本考案は、上記技術案を採用することにより、以下の効果を奏する。

本考案は、シンプルな構造で使用が簡便で、季節や個人の好みに応じて座布団の使用面を選択することができ、かつ、使用時には、座布団の上主体部の下方に座布団の下主体部が設けられているため、座布団の上主体部の底面が直接床面に接触することを回避し、埃の付着による清掃の不便をを防止することができ、二層の座布団のデザインも座布団全体の高さを高くすることができ、より快適性が良い。

【図面の簡単な説明】

【0013】

以下、本考案の実施例や従来技術に係る技術をより明確に説明するために、実施例や従来技術の説明に用いる図面を簡単に紹介する。明らかに、以下の説明における図面は本考案の一部の実施例にすぎず、当業者であれば、創造的な努力をすることなくこれらの図面に基づいて他の図面を得ることができる。

【0014】

【図1】本考案の概略構成図である。

【図2】本考案の座布団の上主体部の分解図である。

【図3】本考案の座布団の上主体部の下から見る概略図である。

【図4】本考案の概略断面図である。

【図5】本考案の座布団の上主体部の裏面の使用の概略図である。

【図6】本考案の座布団の上主体部の概略図である。

【図7】本考案の第2実施例の座布団の上主体部の概略図である。

【図8】本考案の第3実施例の座布団の上主体部の概略図である。

【図9】本考案の第4実施例の座布団の上主体部の概略図である。

【考案を実施するための形態】

【0015】

本考案の実施例における技術的解決手段は、本考案の実施例における図面を参照して以下に明確かつ完全に説明される。なお、記載された各実施形態は、本考案の実施例の一部に過ぎず、すべての実施例ではないことは明らかである。創造的な努力なしに本考案の実施例に基づいて当業者によって得られる他のすべての実施例は、いずれも本願の保護を求めようとする範囲に属される。

【0016】

図 1 ～ 9 を参照すると、分離式の両面用座布団は、座布団の上主体部 1 及び座布団の下主体部 3 を備え、座布団の上主体部 1 及び座布団の下主体部 3 は、実際のニーズに応じて異なる又は同じ厚みが選択され、本例では、座布団の上主体部 1 及び座布団の下主体部 3 の厚みを共に 4 ～ 5 c m とする。座布団の上主体部の周囲には、座布団の下主体部 3 の周囲を着脱可能に包む連結布 2 が設けられている。座布団の上主体部 1 は、素材が異なる正面 1 0 1 と裏面 1 0 2 とを有し、正面 1 0 1 と裏面 1 0 2 のいずれもを上向きに設けられてもよく、座布団の上主体部 1 と座布団の下主体部 3 とを連結布 2 で固定することができる。ここで、連結布 2 は、座布団の上主体部 1 の周囲位置に縫合により連結されることにより、連結布 2 が座布団の上主体部 1 に対してめくり上がり又はめくり下がりし易く、すなわち連結布 2 の一方の面が外向きでも内向きでも設けることができる。このように、座布団の下主体部 3 に連結布 2 を連結した後は、座布団の上主体部 1 の正面 1 0 1 及び裏面 1 0 2 をいずれも上向き又は下向きにして、表裏両用の機能を果たすことができる。

10

【 0 0 1 7 】

なお、座布団の上主体部 1 の上面と下面との間には、充填スポンジ、綿、ポリエステル繊維、メモリ綿、ダウン、パーライト等の素材を充填してもよく、異なる場面での使用ニーズに応えるために、上面と下面との間を 4 個または 1 個の円針 5 で連結することで（図 1 及び図 8 に示す）、内部にある充填物の移動をある程度に制限することができるが、円針 5 で連結しなくてもよい（図 9 に示す）。

【 0 0 1 8 】

具体的には、座布団の下主体部 3 の周囲には、連結布 2 に連結可能な連結部材 4 が設けられており、連結部材 4 は面ファスナーのフック面であり、連結布 2 はその両面が面ファスナーのモヘア面であり、すなわち、面ファスナーの粘着方式で連結布 2 と座布団の下主体部 3 とを連結することにより、座布団の上主体部 1 と座布団の下主体部 3 とを固定する。

20

【 0 0 1 9 】

上記連結構造の他に、別の実施例において、連結材 4 がジッパー又はスナップボタンであったり、他の連結布 2 との連結方式が可能な態様であってもよい。

【 0 0 2 0 】

具体的には、前記連結布 2 は、環状構造、すなわち連結布 2 全体が環状の一体構造をなしているが、あるいはスプリット構造（図 7 に示す）とし、座布団の上主体部 1 の構造に応じて複数枚のスプリット構造にしてもよい。

30

【 0 0 2 1 】

具体的には、前記座布団の上主体部 1 は、正面 1 0 1 が綿麻素材であり、裏面 1 0 2 がパイル素材であり、綿麻素材は主に夏季、パイル素材は冬季の使用に適している。

【 0 0 2 2 】

具体的には、座布団の下主体部 3 の底部には、滑り止め材 6 が設けられ、滑り止め材 6 は、シリカゲルの点付けの滑り止め布であるため、滑り止めの効果を奏する。

【 0 0 2 3 】

この分離式の両面用座布団は、座布団の上主体部の周囲にある連結布 2 と座布団の下主体部 3 とを連結して包被されることにより、従来の一層の座布団を二層の座布団にして、座布団全体の高さを高くすることができ、使用時の快適性が向上する。また、座布団の上主体部 1 の下面が直接床面に接触することも回避され、埃が汚染される問題も回避される。そして、現在の連結布 2 の内側面を外側にめくって座布団の下主体部 3 に連結した後は、座布団の上主体部 1 の初期の底面を上向きにして設けることにより、座布団の上主体部 1 の正面 1 0 1 と背面 1 0 2 のいずれも使用されることができ、適用範囲が広い。

40

【 0 0 2 4 】

上記の各実施形態は、本考案の好ましい実施形態に過ぎず、本考案を限定することを意図するものではない。さらに、本考案の精神と原則の範囲内で行われた修正、同等の置換、改善は、本考案の範囲に含まれるべきである。

50

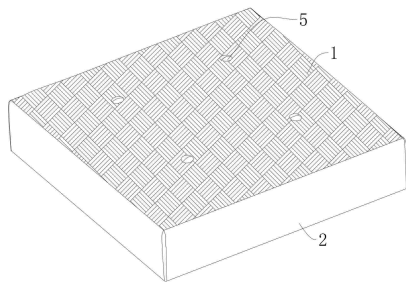
【符号の説明】

【0025】

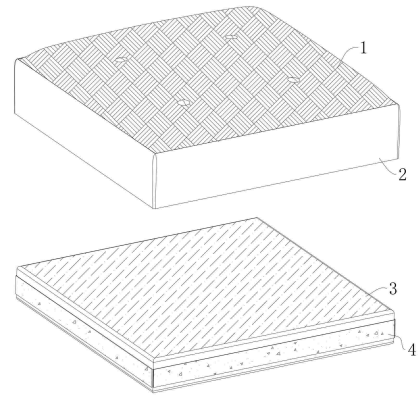
- 1 座布団の上主体部
101 正面
102 裏面
2 連結布
3 座布団の下主体部
4 連結部材
5 円針
6 滑り止め材

【図面】

【図1】



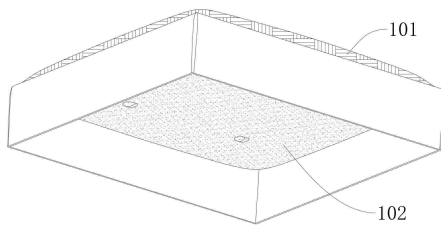
【図2】



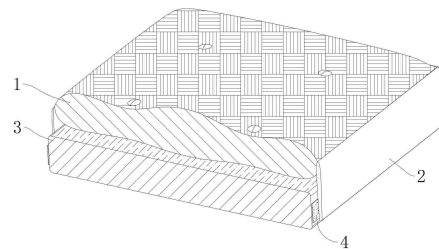
10

20

【図3】



【図4】

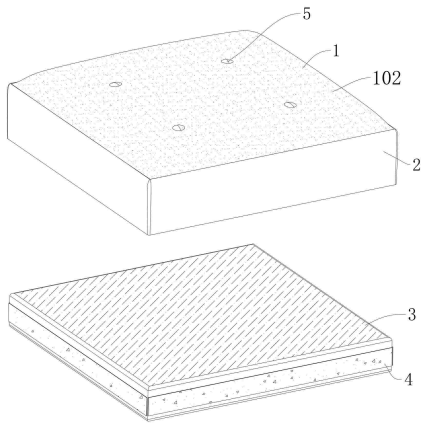


30

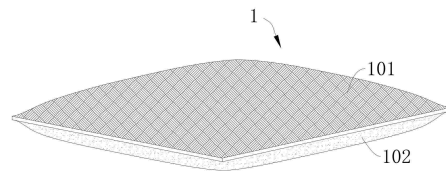
40

50

【図 5】

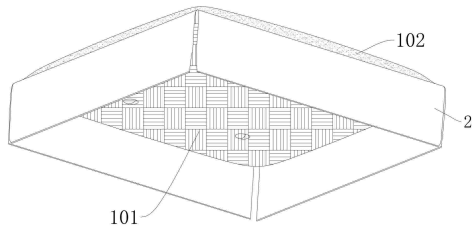


【図 6】

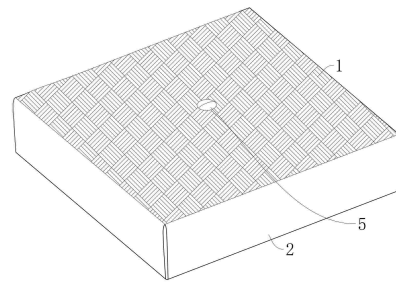


10

【図 7】

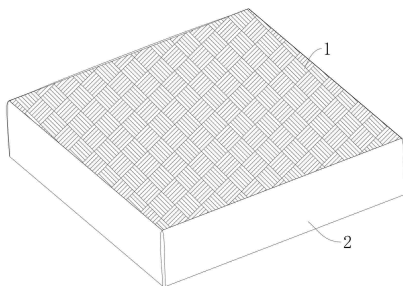


【図 8】



20

【図 9】



30

40

50